

にしっこ 西っ子のみなさんへ 81 3月11日

「3.11」。今日は東日本大震災、東北地方太平洋沖地震が発生して、10年目を迎えます。

今年の2月13日に、この地震の余震とみられる大きな地震が発生しました。10年経った今でも大きな余震が来るという事実を目の当たりにし、改めて10年前の地震が如何に巨大なものであったのかということがわかります。2つの地震のエネルギーの違いを計算すると、おおよそ45倍となります。10年前は、今回の地震45回分が同時に来たこととなります。

「3.11」で改めて、その怖さを認識したのが「津波」です。外国でも「TSUNAMI=ツナミ」と言います。

私の「津波」による被害の記憶をたどると、1993年の奥尻島地震を思い出します。これは、北海道の西40kmほどにある奥尻島の近くで起きた地震により津波が発生し、島の集落が津波とその後の火災によって壊滅的な被害を受けました。ヘリコプターからの被害映像が記憶に残っています。

2つ目は、2004年に起きたインドネシア・スマトラ島沖地震。世界的な観光地であるタイのプーケットも津波が襲い、観光客が逃げまどう姿や、津波に流される映像がテレビに映し出されました。

津波の怖さの1つに移動距離があります。なんと地球の裏側からでもやってくるということです。1960年に起きたチリ地震は世界最大規模の地震でした。この時発生した津波は、なんと太平洋を渡り、日本の北海道から沖縄までの太平洋沿岸にも到達しています。津波の高さは2~6mにもなったようで、日本でも大きな被害を受けました。

海岸線の近くには、昔から多くの方が住んでいましたから、何度もこのような津波の被害に遭っています。

そこで、受けた被害の教訓を後人に残すため、石碑を建てたり、口で言い伝えたりしています。せっかく先人が、我々のために残してくれたこれらのメッセージを生かすことは大切なことです。東日本大震災の時も、この伝承にしたがい命を救われた人が少なくありません。



海辺の町を訪れると、津波のための避難場所を示す看板が立てられていることに気づきます。地震や津波はいつやってくるかわかりません。もしもの時は、津波が到達しない高さまで逃げるしか自分の命を守る方法はありません。

私たちは、海の近くに住んでいないので、ある意味、津波の本当の怖さを知りません。海の近くを訪れる時は、必ず避難場所や言い伝えを地元の方に確認をするようにしたいものです。

